議事録

名 称	第3回 目黒区みどりの基本計画改定及び目黒区生物多様性地域戦略改定懇話会
日 時	令和7年6月26日(木) 18:00~20:40
場 所	目黒区総合庁舎本館 地下1階 第二建築調整室
出席者	東京農業大学 地域環境科学部 造園科学科 助教 栗田和弥 氏
	NPO 法人 Green Connection TOKYO 代表理事 佐藤留美 氏
	目黒区農業振興運営協議会会長 杉村昇一 氏
	NPO 法人 菅刈ネット 21 理事長 坂本尚史 氏
	区民公募 石原令大 氏
	区民公募 中川求美 氏
事務局	目黒区都市整備部みどり土木政策課 清水課長、三国係長、小路係長、角田氏、鶴田氏
	株式会社ポリテック・エイディディ 伴、才木、中村(裕)、前田(記)
会議資料	<ul style="list-style-type: none"> ・次第 ・(論点ペーパー) ご議論いただきたい事項 ・資料1: 第2回懇話会意見対応表 ・資料2: 目黒区みどりの基本計画および目黒区生物多様性地域戦略 新計画骨子案 ・資料3: 新計画の施策体系案 ・アンケート用紙
<p>【会議内容】</p> <p>1. 議事</p> <p>(1) 前回の振り返り、改定計画の骨子案について(資料1, 2)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・資料2の中で、第1章及び第4章と、第2章・第3章間での“みどり”と“生物多様性”の並びが異なるが、意図された部分はあるか。(委員) →いきものや地形といった生物多様性が地域の基盤となり、その上に公園や街路樹のような補完するみどりがあると考えるため、2章、3章の流れはまず生物多様性の現状や課題を整理し、次にみどりを整理するという流れとしている。(事務局) →その流れにするのであれば、例えば新計画の名称を、「生物多様性地域戦略およびみどりの基本計画」とする考え方もあるのではないか。(委員) →前回の懇話会から、目黒区は都市化されているにも関わらず崖線などの目黒区ならではの自然が残っているため、その自然を軸に生活の中に活かしていくべきという意見を受け、生物多様性の現況を先に整理した次第である。(事務局) ・「資料2の2章;めぐるの生物多様性」について、野鳥がメインの内容になっているが、それよりも先に地形や環境そのものの多様性についてまとめてからいきものについてまとめるかどうか。資料を見るとかなり限定されている印象がある。(委員) →みどりをどのように捉えるか、生物多様性をどのように捉えるかによって2章と3章の流れが前後するのではないか。(委員) →骨子案のため限定された内容に見えるが、実際の計画ではまず地域概況等で自然環境の把握をし、その次に公園などのより区民に身近なみどりを整理するという流れとする考えである。(事務局) →あくまでも骨子案ということで、全体の流れを確認するものと認識していただきたい。実際には生物多様性及びみどりに関して多面的な分析を行っており、それを計画の中で公表したいと考えている。(事務局) →「めぐるのみどりが豊かであり、そのため生物が多様である」という流れが自然かと考える。(委員) 	

名 称	第3回 目黒区みどりの基本計画改定及び目黒区生物多様性地域戦略改定懇話会
<p>→2章の図で表している“生物”は何を指しているのか。植物も含まれているか。(委員) →動植物を指している。(事務局) →植物も含まれていることを文章の中に明記してはどうか。(委員)</p>	
<ul style="list-style-type: none"> ・資料2の第3章について、緑被率が減少しているといったネガティブな情報も大切だが、西部地区には一人あたり公園面積の広い地域が多いというようなポジティブ面も示した方がよいのではないか。(委員) 	
<ul style="list-style-type: none"> ・資料2の第4章の改定の方向性について、現時点で想定している具体的な取組はあるか(委員) →資料3における施策の体系の中で取り組みをお示ししている。詳細は資料3の説明の中でご紹介する。(事務局) 	
<ul style="list-style-type: none"> ・資料1のNo.28について、東京23区の任意団体会員として記載されているのは都内の屋敷林所有者だが、目黒区で屋敷林を所有している人も加入は可能なのか。(委員) →任意団体のため、ご連絡を取っていただければ可能である。(事務局) →農地が道路に面しており、減少傾向にあるため、区が生産緑地を買い上げて区民農園にする方法をとっていただきたい。相続時に宅地にして相続税を払うケースが多くあるため、結果として区内の農地が減ってしまう。世田谷区でも120ha以上あった農地が80ha以下となっており、目黒区も同様に減少している。屋敷林や農地といった人の利用によって維持される緑地については任意団体だけでなく行政が対策を講じるべきと考える。(委員) 	
<ul style="list-style-type: none"> ・ワークショップで得た区民の意見等はどこかで反映されるのか。(委員) →今年の1月にワークショップを開催しており、区民の意見を聞く一つの方法と捉えているため、開催の記録は計画の中に残し、区民の意見を計画に反映させているが、どの意見が計画の中のどこに反映されているかについてはまだ整理できていない。(事務局) ・資料2の第5章に記載されている基本理念やみどりの将来像は、区民が理解しやすいイラストなどを載せてはどうか。(委員) →生物多様性地域戦略は、四季の表現など区民に伝わりやすいイラストが使われている。新計画でもこうしたイラストは使用したいと考えている。(事務局) →バージョンアップしつつ活用していただけると良い。(委員) 	
<ul style="list-style-type: none"> ・「第9章；進行管理」について、重要な部分と考えるが、内容が少なく感じられる。江東区や板橋区では推進会議が設けられており、区民の意見を反映したり具体的なアクションにつなげたりすることが可能だが、目黒区では推進会議などの委員会は作らないのか。新計画の基本方針の中でパートナーシップを大きく打ち出しているため、推進会議のような体制をつくと良いのではないのか。(委員) →パートナーシップを実現するための進め方になると考えるが、そのような視点についてどこまでできるか、内容に書けるか検討していく。(事務局) →資料2の第3章についてもキーワードを増やしていただけると良い。(委員) 	
<ul style="list-style-type: none"> ・第8章について、左図に「風といきものみどり軸」「いきものみどり軸」という二つの軸があるが、後者について、“風”と対応するようなワードが名称に入ると良いのではないのか。もしくは、別の表現に変えてしまっても良いと思う。(委員) 	
<ul style="list-style-type: none"> ・1章に目黒区の動向として行政の計画や制度のみを記載しているが、区で行ってきたアクションや事業などの成果は記載しないのか。碑文谷公園などでガイドラインを作成した実績など、もっと目黒区の活動が伝わるような内容があると良いと考える。(委員) →それらの取組内容を計画内のどこに入れ込むと効果的か現在検討中である。 →2章3章の現況にそういった内容を散りばめていくと野鳥のインパクトも和らいでいいのではないのか。(委員) →生物多様性地域戦略では“野鳥のすめるまちづくり”を大きな指標としていたため野鳥に関する内容が前面に出されても良かったが、今回はそうではないため、野鳥の内容を濃くするのであれば計画の中で整合を取るべきと考える。(委員) →今は2, 3章の現況の部分で区の今までの取組について取り扱うつもりである。(事務局) 	

名 称	第3回 目黒区みどりの基本計画改定及び目黒区生物多様性地域戦略改定懇話会
	<ul style="list-style-type: none"> ・自然共生サイトについても何らかの形で記載されるのか。(委員) →施策の中に記載する予定である。(事務局) ・野鳥の保全を書くことはいいが、農家の立場からすると鳥獣害があるため、そういった問題についても考慮していただきたい。(委員) →施策9として外来種の防除・駆除対策を考えている。細かい取り組みはこれから詰めていくためそのような視点も取り入れていく。(事務局) →外来種に限らず鳥獣害対策というような記載があると良い。また、国内外来種についても記載をしていただきたい。(委員) ・民有の緑地のマップや区のみどりに占める割合などの情報があると良い。(委員) →R5 みどりの実態調査の結果を資料編に載せる予定である。(事務局) →資料編に入れつつ、本編でも記載があると良い。プライベートな緑地をセミプライベートで活用していく潮流になると考える。区の緑地の半分以上が民有地のため、重要なみどりとして区民の意識を変えていくと良い。(委員) →施策のターゲットとしても公共のみどりだけでなく、民有地をどう残していくかが狙い所となると思うので、検討していきたい。(事務局) →屋上緑化なども数値化、整理していくと具体的な計画につなげられるのではないかと。(委員) →R5 の実態調査で屋上緑化などの整理も行っている。屋上緑化の面積は倍近くに増加している。第3章の中で記載するつもりである。(事務局) ・第8章に記載されている「広域的なエコロジカルネットワーク図」について、重要な内容かと思うので、大きく載せてはどうか。(委員) →目黒区の境界線も入れて良いのでは。(委員) ・社会情勢の変化に熱中症を課題として挙げ、木陰で休める場としてみどりを絡めてみると良いのではないかと。(委員) →環境基本計画に暑さをカラーで示したマップなどのデータがある。今年の6月から熱中症対策の法律が施行されているため非常に重要な視点として検討する。(事務局) →TOKYO OASIS という、大手町や丸の内、有楽町の緑地や建物の日陰のデータから涼しい道を選択できるアプリがある。これからはそういったものが更に必要となると考える。(事務局) →DX の活用やGX にも触れていく必要があるかと考えるが、計画の中で触れられているか。 →施策のタイトルとしては記載されていないが、内容としては記載がある。(事務局) →見える化できると良い。(委員)
	<p>(2) 改定計画の施策体系・内容について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・23 区内では足立区、中央区、江東区、品川区において自治体による園芸用土の回収が行われているが、目黒区では実施しないのか。園芸用土は可燃物等で廃棄することができず、不法投棄されることで外来植物の問題にもつながるため検討してはどうか。(委員) →おそらく一度熱処理をして再生しているものと推察するが、目黒区でそのような処理が可能か検討が必要である。他自治体の取組について調査する。(事務局) ・リサイクル、リユースの視点が少ないように見受けられる。もう少し増やしても良いのではないかと。(委員) →施策16 で資源循環という視点でリサイクルなどに触れている。園芸用土については踏み込めていないが、園芸用土の回収について検討し、記載することになれば施策16 の中になると思われる。(事務局) ・今回は施策の内容について全てを確認できていないが、次回の懇話会でも施策の内容について議論する時間は設けられるのか。(委員) →次回の懇話会では計画の素案を冊子にしてお見せしたいと考えている。そのため、内容についてのご意見は、次回の懇話会までの期間でいただき、素案のたたき台に反映させたいと考えている。また、次回の懇話会においても施策の内容について新たなご意見があればお聞きする。(事務局)

名 称	第3回 目黒区みどりの基本計画改定及び目黒区生物多様性地域戦略改定懇話会
	<ul style="list-style-type: none"> ・公園のパークマネジメント的な話はどこに記載があるのか。公園の担い手である団体や自治体が弱体化していく中でどのような対策を講じるかが重要な課題ではないか。不足している公園の再配置などの記載はあるが、公園を管理する団体については記載がない。こうした担い手の減少は他自治体でも課題となっているが、目黒区はどのように考えているか。(委員) →これまでのみどりの基本計画の中で、公園での取組として住民参加が基本目標にあったが、新計画ではその視点が抜けてしまっていた。実態として、公園活動登録団体は増減がないが、グリーンクラブのような団体数は減っている。団体に対しての取組、施策については現段階では無かった。(事務局) →川崎市では公園の担い手づくりのためのスターターブックを発行していたり、江戸川区では今までの愛護会とは別に、公園管理に関心をもつ若年層の活動への入り口を創るための新たな仕組みをつくったりしている。新たな担い手、仕組みを作っていくことは国交省の都市公園の柔軟な管理運営のあり方の検討会で言及されているため新計画でも触れるべきと考える。(委員) →構成の中ではどこに入れるべきか。(事務局) →パートナーシップの部分に入れるべきかと考える。(委員)
	<ul style="list-style-type: none"> ・計画の最大の目的は区民が関心を持って区民自身も活動を推進していくことだと考える。区民の意識醸成から活動への行動変容、活動の支援といった内容が施策の中で一連の流れとしてストーリー性が見えるように記載できないか。イベントの開催や情報発信、現状の課題やみどりの価値の啓発などは書いてあるが、それに関心を持った人が次にどういったアクションを起こすのか、つまり、区民が学び、人材を育成するのが書かれていない。そうした「学びの場」があって、その次に学びを活かす場としてのボランティア等の活動がある。「知る、気づく・学ぶ・行動する」という3ステップが環境教育のセオリーとなっていて、それに基づいて構成されていくと良いが、行政の施策では3ステップの内容が散らばってしまっながらないことが大きな課題と考える。区がこういったコーディネートや伴走支援をして、活動する人たちを支援する体制ができれば人も供給源も増えていく。このようなしくみやストーリー性を計画の中で見せられると良いと思う。(委員) →花とみどりの学習館でボランティアの養成講座を年間を通して実施している。講座を受けた卒業生が区内で活動しようとするループがあるが、これを「知る、気づく・学ぶ・行動する」の一例としてイメージして良いか。(事務局) →ご指摘の通りである。みどりなどに関心のある人を集め、講座も様々なレベルがあり、卒業したら次のステップがあるという流れができると良い。駒場野公園にインタープリテーションの拠点となる活動があるので、それをもっとアピールして良いのではないかと考える。また、公園は社会教育の場としてとらえなおし、循環的な人材育成の流れを創っていくべきである。現段階の施策内容には相談窓口の開設やサポート体制が抜けているのではないかと考える。(委員)
	<ul style="list-style-type: none"> ・情報発信の方法について、区報や区の公式 SNS などが挙げられているが、区民が自分から見に行かなくてもみられる、自然に目に入るような方法があると良い。(委員) →みどりの分野ではプッシュ通知はまだないが、大雨情報のシステムなどは活用できると考えるが、そのような認識で良いか。(事務局) →何かに入っていないと得られないものではなく、街の中の掲示板のような自然に目に入るものが良い。(委員) →ポータルサイトを作ってはどうか。QR コードを作成し、それを公園などに掲示して目黒区内のイベントやボランティア活動、講座の情報がわかるようにしてはどうか。(委員) →公園を除く街中ではみどりに関する情報の発信は少ないため良い方法を検討していく。(事務局) →今までの情報発信ではポータルサイトのようなものはなかったのか。イギリスにはBTCV という団体があり、そこではイギリス全土のボランティア活動情報が集約されている。(委員) →CSR 活動を始めたい企業等の協賛の裾野を広げられることもできると考える。(委員) →今まではHPに掲載していた。情報不足な部分があるため、まずは他自治体の事例を調べるところから始めさせていただく。(事務局) <ul style="list-style-type: none"> ・施策 30 の中で、「区内の幼稚園や保育園、小学校と連携し～」とあるが、菅刈公園では過去

名 称	第3回 目黒区みどりの基本計画改定及び目黒区生物多様性地域戦略改定懇話会
	<p>に行われていた。この取組自体は重要だが、日常的な管理を誰が担うのかという問題がある。農業体験などは部分的なかかわりで終わってしまうのがもったいないため、教育委員会にさらに時間を割いたプログラムを作成してもらうなど、一步踏み込んだ施策を創っていただけると良い。(委員)</p> <p>→農地が少ない目黒でこのようなつながりができるといい。(委員)</p> <p>→農園での収穫体験について、6月に2週続けて品評会が行われ、じゃがいも掘りが5農園で実施された。応募者数が多く、5000件ほど来ていた。八雲では小学校と連携して収穫祭が行われている。(委員)</p> <p>→農家のイベントなどの活動も計画に載せていただけると良い。これからは宅地が農地に転用される時代になっていくのではないか。そういう視点は持っていたいと思う。(委員)</p> <p>→ゴーヤカーテンによる壁面緑化をやっているところはいくらかある。(委員)</p> <p>→生活ができるレベルまでいかずとも、自分で収穫して食べられるということが大切だと考える。(委員)</p> <p>→小学校で朝顔などを育てることがあると思うが、食育としてバケツ稲などを育ててもらうのはどうか。(委員)</p>
	<ul style="list-style-type: none"> ・資料2の施策体系のイメージ図についてなにかご意見はないか。(事務局) <p>→施策体系の考え方は良いと思うが、絵がとっつきにくさがあるため、もっと目黒区らしくおしゃれにすると良い。また、パートナーシップを施策の内容として意識されているとは思いますが、もう少し強調されるといいと思う。パートナーシップを発揮させる仕組みづくりについて、誰が主体となるのか、PRをしたり教えたり、バケツ稲を準備したりするための拠点が必要である。目黒区は花とみどりの学習館のような拠点があるため、そうした拠点をピックアップして明示化できると良い。現行の計画の中で、「実施されている活動をつなげる仕組みをつくる」という記載がある。これが実際にどの程度実施できたかなども新計画を策定するにあたって重要な観点ではないか。(委員)</p> <p>→現行計画の目標と実施された実績を整理した表があると良い。(委員)</p> <p>→ガイドラインなども残していただきたい。生物多様性地域戦略とみどりの基本計画の統合によって内容が薄くなってしまうことがないようにしていただきたい。(委員)</p> <p>→薄くしようとは考えていないが、厚くなった時に区民に手に取ってもらえないことが懸念されるため、編集の仕方を工夫するなどして対応したいと考えている。(事務局)</p>
	<ul style="list-style-type: none"> ・住民とみどり、いきものの関わり、目指すイメージがわかりづらいと感じるため、ビジュアルでの表現がほしい。(委員)
	<ul style="list-style-type: none"> ・みどりが減っている背景は、ネガティブな面だけでなく、目黒区のまちづくり等からはポジティブに捉えられる面があるのではないか。みどりの基本方針について、「目黒区らしさ」を感じづらく、まち全体の進め方から更に具体的にしていけると良い。(委員)
	<ul style="list-style-type: none"> ・公園の方針の決め方は何に基づいているか。(委員) <p>→公園の実態調査を行っており、その調査結果、現状の公園の配置状況を踏まえて方針をつくっている。(事務局)</p>
	<p>以 上</p>